

熟練技術と幅広い機能性で付加価値を創造 外部連携による継続的改善で生産性を向上

愛知県三河地方の地場産品「三河木綿」の加工を手掛ける三河木綿加工所（1913年創業）を前身とし1948年に設立された。100年以上にわたり、三河地方を代表する専門企業として、「繊維製品の染色・加工、整理および販売」を主事業としてきた。高級カーテンから自動車用シート機材、電車や飛行機のブランケットまで、身近にあるさまざまな物に、同社の高い染色・加工技術の施された生地が使用されている。現在では起毛などの高度な「加工技術」、防災や撥水、抗菌などの「機能性加工」を得意としている。

所在地 愛知県蒲郡市宝町2-29
電話/FAX 0533-68-2196 / 0533-68-3200
URL <https://tsuyaei.com>
代表者 代表取締役社長 嶋田 義男

設立 1948年
資本金 2,000万円
従業員数 70人



「色彩豊か」に「機能的」に染める熟練技術で時代のニーズに応じた付加価値を創出

生地の伸縮性を利用したSHS加工（生地に凹凸を出す）をはじめとする、高度で多様な技術を持ち、自社一貫染色・加工で高機能と高品質を実現している。防災、撥水、抗菌、光触媒（紫外線があたると環境ホルモン等が分解、除去される）など、顧客のオーダーや潜在的ニーズに応じて幅広い機能性を持たせ、新たな需要創出や受注獲得を実現している。CO₂排出削減等の具体的な数値目標を掲げ、SDGs「持続可能な開発目標」にも積極的な取組を行っている。



暮らしに豊かな色彩を添える製品

外部機関との積極的連携による加工工程の改善で効率化と省エネ化を実現

熱処理工程では、染色時のシワを防ぐ目的で布を広げた状態でチャンバー（炉）に入れ熱をかけるため、広いスペースと長い熱処理時間を必要としていた。三河繊維技術センターとの共同実験の結果、ガス赤外線予備乾燥装置の活用で熱処理速度の向上と乾燥ランニングコストの大幅な削減を達成し、生産性とエネルギー効率の改善を実現した。また、繊維素材精練工程においては、あいち産業科学技術総合センターおよび三河繊維技術センターと技術開発連携を行って革新的改良に取り組み、精練度向上と環境負荷低減に成功した。



継続的に改善されてきた製造工程

雇用創出による地域貢献、健康経営への注力、コロナ禍に対する献身的な対応

全社員の大半が地元三河地方の出身であり、毎年、2～5人を採用して、地域の雇用創出に貢献している。さらに、経営的視点から社員の健康を重視し、2019年、2020年と、「健康経営優良法人」にも認定された。新型コロナウイルスの感染拡大当初の全国的なマスク不足に対しては、その対応を「地域全体の課題」と捉え、地元企業と連携し、採算を度外視してマスク生地に光触媒加工を行う（ウイルス低減効果が見込まれる）など、地域とともにコロナ禍を乗り越える取組に力を注いだ。



2020年優良健康経営法人に認定